

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 月・2	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	社会と歴史(公教育の歩み～長崎県壱岐島における公教育成立・形成の実態史を探る～) Society and History (Approval of public education process in Nagasaki)		
対象年次 1・2年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等)	科目分類		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:地頭菌健司 /Eメールアドレス:jitozono@nagasaki-u.ac.jp /研究室:新館254 /TEL:095-819-2293 /オフィスアワー:月4			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標(500文字) <授業のねらい> : 公教育の成立・形成過程を長崎県の身近な地域(それも離島地区)の実態史を読み解くことで、地域社会や生活者視点から捉え直し、自らに歴史の空間的・構造的な見方を養い、合わせてこれからの自らの学校教育とのかかわりの中で生かしていく意識向上や姿勢づくりを図る。 <授業方法> : 地頭菌作成の自作資料を主たるテキストとして用い、明治初期から昭和期にいたる長崎県壱岐島における公教育形成過程を学校関係者・地域住民・学生の視点で明らかにしていく。各時間とも、資料提示→事前研究発表(学生)→研究協議→講義(地頭菌)→まとめの手順で、ワークショップ(個人ワークとグループワークの活用)方式で進める。 <授業到達目標> : ◎授業における学びを通して、公教育成立・形成のメカニズムに興味関心を抱き、基本的理解ができたか。 ○授業における学び方を通して、協働で、参画的に学ぶためのスキルアップが出来たか。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)(1300文字) 授業内容(概要) 第1回 ガイダンス(各種学習資料の配付、授業内容や方法の説明、学生ニーズの聴取) 第2回 壱岐島における公教育の発足①明治初期から明治中期の学制成立期 第3回 壱岐島における公教育の発足② 第4回 壱岐島における公教育の発足③ 第5回 壱岐島における公教育の発足④ 第6回 壱岐島における公教育の発足⑤ 第7回 壱岐島における公教育の発展①明治中期から大正初期の女子教育を中心に 第8回 壱岐島における公教育の発展② 第9回 壱岐島における公教育の発展③ 第10回 壱岐島における公教育の発展④大正初期から昭和期へ～自由教育から戦時教育へ～ 第11回 壱岐島における公教育の発足② 第12回 壱岐島における公教育の発足③ 第13回 壱岐島における公教育の発足④ 第14回 本授業における学習内容の整理・まとめ(個人ワーク) 第15回 本授業における学習内容の発表・協議(グループワーク)			
キーワード			
教科書・教材・参考書	授業において適宜配布・指示する。 主テキスト・・・「壱岐教育の百年」山口麻太郎、「壱岐高物語」地頭菌健司		
成績評価の方法・基準等	個人ワーク及び集団ワークでの予習及び研究協議での参画(50%) 授業終了後の総括レポート及びプレゼンテーション(50%)		
受講要件(履修条件)	特になし		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	社会と歴史のかかわり方等を実態史レベルで考察するものであり、当時の民衆の学校教育、特に公教育への思いや願いが示されている。その経験則や意義を改めて振り返ることで、個人、そして個と集団の公教育のあるべき姿を考える手がかりとなすことができる。		
備考(準備学習等)	壱岐を教材として扱うが、各出身地区の同時期の学校教育の在り方等にも関心を持ち、郷土史などを通して資料収集等を行っておくことが望ましい。		